

# 三宅美智子さん

グローバルコミュニケーションの  
専門家として日中両国の役に立ちたい

## なでしこ力



三宅美智子さん

通訳の仕事の中で最もスキルが高い人が行うのは、国と国の折衝や交流などの際の通訳である。三宅美智子さんは、エム・オー・シーホールディングス（名古屋市）の役員であり、現役の同時通訳者として、閣僚会合など政財界の要人の通訳を務めるなど、重責を担っての仕事もこなす。コーディネーター、講演会など多彩な仕事を行うなど多忙な毎日だ。

三宅美智子さんは江蘇省出身。名高い中国の名門大学である武漢大学で学び、中国航空宇宙省関連の大手国営企業に配属され、日本担当などで活躍した。日本人の夫と結婚し名古屋に住み始めると、名古屋大学などで学んだ知見を踏まえ、通訳者としての活躍の場を広げてきた。名古屋に住んで20数年、「日本と中国の両方の社会背景、経済文化を深く理解した上での通訳」は定評があり、日中両国からハイレベルの依頼も多い。

自らの役割を「グローバルコミュニケーションの専門家」と捉え、同時通訳、VIPの接遇、バイリンガル司会、外国人おもてなし関連の講演も行っている。今は認知度が高まった「昇龍道」に関しては、企画やプロモーションなど立ち上げ当初から深く関わってきた。

現在は地元（愛知県）と東京をベースに仕事を行っている。「地元で仕事をするなら自動車とエネルギーをはじめとする経済産業分野を熟知していることが大切です」と三宅さん。現在、中国とのつながりが深い自動車産業関連の情報

の収集を行い、流動的な情勢に目を配る。「現在、自動車産業は100年に一度の大変革の時期。こんな時だからこそ、日本と中国を結び双方の発展に寄与できれば」とほほえむ。官公署や各企業から三宅さんへのオファーは絶えず、昨年はほとんど休日がなかったという。

各方面からの期待におごることなく、「通訳者は、一生かけて勉強しても足りない仕事。終わりの無い道です」と語る。単純に言葉を置き換えるだけの通訳でなく、「双方の国についての幅広い知識や、瞬時の判断力、人によって違う対応力などが通訳者には必要です。相手の個性や表現の特徴まで意識して通訳をしないと、いざという時に全く対応できません。経験や知識の蓄積を怠らず、常日頃アンテナを張り情報収集を続けた上で、先入観を持たず通訳をする必要があるのです」。

スキル以外に、時間をかけた研鑽が必要な仕事だけに、三宅さんはむやみに仕事を広げようとしていない。

「語学だけでは社会に貢献できません。いか